

住職日記 Vol.1

「門徒有志と本山報恩講参拝旅行」

11月27日～29日の日程で、京都・東本願寺真宗本廟で厳修される、親鸞聖人のご法事である報恩講に、観光も兼ねてお参りして来ました。

初日は昼前に京都駅に着き、本山の前にある京料理屋で昼食をとり、地下鉄を乗り継いで青蓮院に行きました。青蓮院は、天台宗の門跡寺院で、親鸞聖人が九歳で出家得度された所です。

日が暮れて青蓮院に到着した親鸞聖人は、座主の慈鎮和尚から「今日はまだ遅いから、得度式は明日にしてはどうか」と言われますが、「明日あると思う心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものかは」(満開の桜のように、今日得度する決意をしたものが、夜に嵐が吹いて明日には花が散り落ちることもある。私の決意も明日には変わってしまうかもしれない)という句を詠んで、夜中に得度式を行ったといういわれがある寺院です。得度を行った仏間を見学し、庭園を鑑賞しました。書院から見渡す池に紅葉が映えて、見事な景色でした。

次に青蓮院の隣にある浄土宗総本山・知恩院を見学しました。

浄土宗は、親鸞聖人の師である法然上人の宗旨です。本堂は改装中で素屋根が掛かっていましたが、山内の紅葉を見て回りました。

その後、雨が降り始めたため予定を切り上げホテルに向かい、夜は祇園の創作京野菜料理に舌鼓を打ち、楽しい宴となりました。

2日目はメインの報恩講参拝です。朝6時半のお勤めからお参りました。12月の京都の早朝はさすがに寒く、薄暗い荘厳な御影堂の中は、寒さもあって身の引き締まる思いで座りました。

その後、朝食を京都駅前のカフェでとり、再び10時からの日中法要に行きました。始まる前から満堂で、やっと座ることができました。この日中法要は、1年に一度だけ、坂東曲というお勤めがあります。80人以上の僧侶が座ったまま一斉に同じ振り付けで上体を動かし、お勤めをします。これは親鸞聖人が船に乗っている時に、お念仏を申しながら揺られていた姿をお勤めに取り入れたもので、京都の風物詩にもなっていて、新聞社やテレビカメラも取材に来ており、とても盛大なお勤めでした。



↑青蓮院門前にて
庭園の紅葉 ↓
←親鸞聖人童子像



←親鸞聖人の句碑がありました

→知恩院への
参道



←京都東本願寺の
御影堂まえにて

法要の余韻を残したまま、大谷派宗門の大学である大谷大学の博物館を見学に行きました。展示物は、大谷大学と赤煉瓦校舎の歴史。ここには明治期に建てられた赤煉瓦校舎が残っており、その保存と新校舎設計を行った設計会社が、常福寺の新客殿の設計を手掛けました。柱や窓の形など、端々に同じ匂いを感じて一同納得。



その後、大徳寺まで散策し、夜は南禅寺の湯豆腐で乾杯しました。

残念だったのは、南禅寺の紅葉ライトアップが30分待ちの行列で諦めたこと。その代わりに、京都タワーのバーで静かに飲み、語りながら、京都の夜景を楽しみました。



最終日は、京都の南方、宇治の平等院を見に行きました。ところが改修中で、鳳凰堂は養生で覆われており、紅葉の庭園を見るだけでした。参道の喫茶店で抹茶を一服したあと、伏見区・醍醐寺の五重塔を見て岐路につきました。

のんびり、和気あいあいとしゃべり、吞んで食べた充実感いっぱいの旅行会でした。



← 醍醐寺の五重塔



→ 宇治川にある紫式部像



← 改修中の鳳凰堂

↑ 平等院参道